

『ダムマニアからみる水源地域振興』概要

講師

宮島 咲 氏(ダムマニア&ダムライター)

ダムマニアからみる水源地振興について話をします。私がダム巡りを始めた2001年当時は、ダムは非常に閉ざされた場所で、個人で気軽に行けない世界でしたが、現在は、ダムの雰囲気は180度変わっています。以前は人が全くなかったダムも非常に賑わっています。ダム好きの私にとっては非常にうれしいことです。ダムはなぜこれほど変貌したのでしょうか。この変貌とはいい方向への変化です。それに役立つものの一つがダムカードです。国土交通省が担当して作ったもので、2007年7月に誕生しました。現在では約700から800カ所のダムで配布されています。

ダムカードと同時に誕生したアイテムがダムカレーです。このダムカレーは2007年頃から出始めましたが、ダムを訪れた者が食べるのに最適なアイテムです。ダム巡りをしている者は、ダムカレーがあることが分ると食べることが多いです。ダムカレーの誕生によって、ダムに関するお金を使ってもらう手段が構築されたといっても過言ではありません。現在は日本に約200種類あるといわれていて、各都道府県に最低1個はあります。

そのような経緯を経て、ダム関係者や水源地の方々も、さまざまなイベントを仕掛け始めました。ダムは集客できる観光施設であると感じたわけですね。そのイベントは大きく5つの種類に分けられます。

1点目は点検放流のイベント化です。点検放流とは何かというと、ダムは年に1回、水門がきちんと動くかを確認しなければならない決まりがあります。その日はダムの水門を上下に動かし、きちんと動くかを点検します。以前は平日にこっそり行われていて、水がたまっていないときに水門だけを動かしていました。現在はあえて水がたまっている土日に開催をするように変更し、それを1カ月前ぐらいからいつ点検放流をするか告知してイベント化をしています。

2点目は観光放流の開催です。集客のためにダムの放流を行うようになりました。これは以前からずっと行っていたダムもあります。

3点目はダム見学ツアーの開催です。2007年頃からダムが主催する無料のダムツアー、民間が主催する有料のダムツアーが誕生し、年々増えています。この2年は新型コロナウイルス感染症の影響で下火になっていますが、また復活してくるでしょう。4点目はダムのライトアップの開催です。各地でライトアップをするダムが増えていて、非常にきれいです。5点目は、自主参加を促すアイテムがどんどん増えています。新潟のダムスタンプラリー、かるた等のオリジナルグッズを配布するようになりました。例えば、スタンプラリーは、何カ所かのダムを回るとオリジナルグッズがもらえるなどの仕掛けがされています。

大きく分けてこの5種類が、最近、ダムで行われていて、人を寄せ付ける手段になっています。集客できるイベントが増え、水源地に多くの観光客、見学者が訪れています。この現象はインフラツーリズムとも呼ばれています。ダムを利用した地域振興の始まりです。地域振興とインフラツーリズムは、果たして同じなのかを私なりに考えてみました。地域振興は、地域に人が増え、賑わうことです。インフラツーリズムは、ダムなどを見て回らせる取り組みのことを指します。インフラツーリズムをする人が増えれば、地域振興や町おこしになるかという違いがあります。

なぜかという、インフラツーリズムを仕掛けている者と地域振興をしようとしている者の着地点が違うからです。地域振興とは、単純に表現すると地域が儲かることです。それに対してインフラツーリズムは、

インフラストラクチャー施設を見てもらえればいいのです。地域が儲かることと簡単に言いましたが、人流の活発化でダムに人が来て、ダムの周りが儲かりだし、飲食店、お土産店、商業が活発化します。活発化すると人がたくさん来るので、お店はアルバイトをもっと雇おうとして、雇用の増加につながります。それによってその地区に人がどんどん住み始めます。

ダムマニアの視点と商売人の目線から地域振興の素晴らしい例を紹介します。

1 点目は、やぎならふじ点検放流です。やぎならふじ点検放流は、群馬県みなかみ町にある矢木沢ダム、奈良俣ダム、藤原ダムで一斉に点検放流を行うイベントで、毎年、開催されています。矢木沢、奈良俣、藤原点検放流だと長いので、やぎならふじ点検放流と略しています。2日間に分けて点検放流を行うことで、宿泊を促すつくりになっています。放流当日は、ダムの前に屋台が並びます。ダムの点検放流を見ながら昼ごはんを食べる、ビールやジュースが飲めるようになっていて、お金を使ってもらう仕組みが構築されています。地元青年団のブースでは、みなかみ町の魅力や移住をPRしていて、点検放流を見に来た人に移住を促すようなつくりになっています。他には、ダムの前でホテルのレストランの方がダムカレーの呼び込みをしています。単なる放流を見るイベントではなく、フェスティバル、カーニバルです。ダムでたくさんのイベントをすればいいと思うかもしれませんが、ダムには欠点があります。駐車場が少ないことです。矢木沢、奈良俣、藤原ダムも駐車場が非常に少ないのが欠点でしたが、地元の方が下流側に広場を見つけて、その日に限り、そこを有料駐車場にしました。ダムまでバスで5分ぐらいかかりますが、バス送迎付きで駐車ができます。自家用車が何百台も止まり、駐車料金が1000円ずつ発生して、バスでピストン輸送をしています。周辺の宿に泊まるとファストパスがもらえ、それを持っているとこの長蛇の列をパスして優先的に乗れる仕組みを設けています。この列は並ぶと1時間ぐらい乗れませんが、ファストチケットを持っていると待たずに乗れます。これなら泊まるでしょう。これがダムを使った地域振興、ダムを使った町おこしです。ダム関係者の方、公務員の方は、ぜひこの考えを持って計算をしながら行ってください。

2 点目は、菌原湖堰堤まつり、菌原ダム点検放流です。主催者が観光協会なので、点検放流プランもつくりました。観光協会はほとんどの方がホテルの管理者、経営者なので、簡単にプランをつくれます。なぜプランをつくるかというと、宿泊化を促すためです。ある年のスケジュールでは、翌日13時から15時に放流が行われるにもかかわらず、前夜からイベントが始まります。有名なダム愛好家のトークショー、ダムのライトアップが前日に開催され、翌日に放流が行われるスケジュールです。これによって、泊まりたい、泊まらなければ損という気持ちになるでしょう。泊まった翌日、点検放流は13時からですが、宿泊施設からの送迎はチェックアウトと同じ10時です。10時までにホテル前に集合し、ダムに10時15分頃に着きます。13時まで暇で仕方ありませんが、堰堤マルシェと名付けられた野菜売り場、ダムカレー、そば、うどん、生ビールを販売する屋台などがたくさん出ています。その間はどうしてもお金を使います。民間は現在のような形でお金を使わせて、おもてなしをします。ダムの管理者たちは、収益まで考えてダムのイベントを仕掛けてほしいです。

3 点目は尾原ダム点検放流です。尾原ダムは島根県にある国土交通省のダムです。クレスト放流イベントのチラシには周辺施設のことが書いてあります。尾原ダムのカードを持っていくと、これらの施設で割引が受けられると書いてあり、地域ぐるみで行っていることが分かります。ダム管理者は、フーチングと呼ばれる、ダムの脇に付いている階段を上らせるイベントを行いました。これを上り切ると登頂証明書が発行されます。うれしい気分になれた後、おなかがすいて食べるという循環です。ダムの管理者はペーパークラフトの配布もしていました。先ほど紹介した二つの放流イベントのように宿泊にも力を入れれば、もっと売り上げは上がるので、ぜひ取り組んでほしいです。

4 点目は、湯田ダム & 湯田貯砂ダムの放流 & ライトアップです。湯田ダムは岩手県にある国土交通省のダムです。湯田ダムの水源地である西和賀町が湯田ダムの放流をイベント化し、ライトアップまでしています。このイベントは、近くにある道の駅の駐車場を使っています。そこから無料のシャトルバスが運行されており、5 分から 10 分ほどでダムに到着します。発着場が道の駅なので、そこで買い物をしたくなりますし、ご飯も食べたくなるような仕組みになっています。ダム管理者は、宿泊者向けにスペシャル見学ツアー、特別エリアからダムの放流を鑑賞できる特典を用意しました。近くに何力所か温泉施設があるので、そこに泊まった人向けに特典が用意されています。特典があれば泊まりたくなるでしょう。昼間だけではなく、夜もライトアップをしながら点検放流を行っています。朝から晩までいたくなります。ライトアップをしながらの放流は、色がレインボーに変わります。10 分ほど見ていないと色が一巡しないので、ずっと見ていたくなる環境ですし、昼からずっと見ていたくなります。気付いたときには辺りは真っ暗なので、宿を取ったほうがいいかもしれない気になります。地元ともう少し連携を取ってもらえれば、もっと素晴らしい収益になるはずですよ。

5 点目は宮ヶ瀬ダムナイト放流です。宮ヶ瀬ダムは神奈川県にある国土交通省のダムです。宮ヶ瀬ダムの水源地である愛川町が夜間の点検放流、ライトアップイベントを仕掛けました。屋台も出店されていますし、放流の他にも太鼓などのショーが行われ、会場を非常に盛り上げています。宮ヶ瀬ダムが立地している愛川町、相模原市、清川村の三つの自治体が連携をすればもっと素晴らしいものになるでしょう。

ここから毛色が少し変わります。6 点目は九州電力ダムツアーです。九州電力が所有のダムを見せるために行っています。少し高額ですがすぐに完売しましたし、素晴らしいツアーでした。インターネットで探してみると、交通会社や旅行代理店と協力をしてつくり上げたツアーだとわかります。電力の施設を生かした地域の活性化を望むためにつくったそうです。ツアーなので道中で地元の飲食店に寄り、地元の名産を食べる仕組みを構築しています。

7 点目は新潟ダムスタンプラリーです。これは自主参加的な企画です。新潟県内のダムを巡ると、スペシャルダムカードとオリジナルグッズがもらえます。これは新潟県の複数の地域振興局、企画振興部が連携してつくりました。ダムが関係する土木部ではなく、企画振興部がつくったプランです。素晴らしいのは三つの振興局で実施をした点です。新潟は、ここからここまで 350 キロメートルから 400 キロメートルほどあり、非常に長い距離です。全て集めようとする、高速道路なしで 300 キロメートルほど走行しなければなりません。その場合、泊まる必要がありますので経済効果も大きくなります。

8 点目は群馬ダムかるたです。群馬県には縄文かるたがあり、小学生のうちからかるたに親しんでいる土地です。群馬県には、ひらがなの数とちょうど同じ 46 基のダムがあります。今年の 11 月 1 日から各ダムで配布が開始されました。10 種類のかるたを所定の場所に持っていくと、先着 600 名にカードファイルが進呈されます。このカードファイルは、600 個もあつたのにもかかわらず、配布開始の翌日の 11 月 2 日にはかるたの在庫がなくなっていました。600 人以上が 10 種類のかるたを集めたこととなります。私も回ってみました、どれほど頑張っても 1 日に 22 種類ぐらいしか集められません。どうしても群馬県内に泊まることとなります。群馬県を回るのに 100 キロメートルから 200 キロメートルは走るでしょうし、家から考えるとずっと走ります。そのため、群馬ダムかるたの経済効果は相当なものになるでしょう。

9 点目は水陸両用バスです。現在、水陸両用バスが流行っていて、津軽、長井、湯西川、ハツ場ダムで運行していることを確認しています。民間がツアーを運営していて、道の駅などから出発し、ダムを周遊して戻ってくる 60 分ほどのコースです。場所によってはダムの中に入れるツアーと組み合わせています。これは初期投資が非常にかかります。バスの購入、リース、バスの運行などを考えると、費用対効果が心配です。

最後に番外編で、福岡県のダム印帳です。御朱印のダム版です。できるだけおもてなしというか、お金を稼げる形にしていくといいでしょう。

紹介したものを分類してみると、放流系、ライトアップ系、ツアー系、自主参加型です。ダムマニアの私にとって、多くの人がダムの水源地を訪れてお金を使ってくれることは、非常にうれしいです。

それに対して、水源地の人々には、訪れた人に最大のおもてなしをしてもらいたいです。簡単にいうと、おもてなしとは、お金を稼ぐ手段をつくり、お金の落としどころをつくることです。例えばお土産など、お金を使わせる手段を構築してください。それに関しては、官民とダムの管理者が一体となり、おもてなしの手段、お金を使う手段の構築をしてもらいたいと願っています。

以上